

尖石遺跡と郷土史家に焦点

茅野 縄文考古館で「第一巻刊行100年記念展」

茅野市尖石縄文考古館で、企画展「諏訪史第一巻」刊行100年記念展」が開かれている。諏訪地方の考古館・博物館7施設の合同企画の一環。同館では「尖石」の誕生〜鳥居龍蔵と郷土史家たちの尖石遺跡〜をテーマに、尖石遺跡と地元の郷土史家の足跡に焦点を当て、諏訪史第一巻刊行の意義を紹介している。30日まで。9日はギヤラリートークを開く。

(宮沢知史)



「尖石」の誕生」をテーマに「諏訪史第一巻」掲載の遺物などが並ぶ尖石縄文考古館

同館の企画展では、諏訪史第一巻編さんに関する記録類、地元の考古遺物収集家に関する資料、第一巻に掲載された遺物など約40点を展示した。パネルで、第一巻刊行以前の諏訪地方の郷土史研究、当時日本を代表する人類学者だった鳥居龍蔵と編さん事業をつなげた人々、鳥居と尖石遺跡との関わりなどを解説している。

同館によると、尖石遺跡は地元の小平小平治が学界に「南大塩ノ遺跡」と報告して初めて、世に知られた。弟で俳人の小平探一（雪人）は山浦一帯の考古遺物の収集に努めた。諏訪地域で郷土史への関心が高まる中、郡史編さん事業が始動。編著者の鳥居を中心に中央学界の研究者、地元の教員や愛好家などが協力し、諏訪史第一巻が完成した。その第一巻で初めて「尖石遺跡」という名称が記載され、重要な遺跡として注目さ

れるようになったという。

市文化財課の堀川洗太郎さんは「諏訪史第一巻は中央の専門家の最先端の研究内容、地元の郷土史家の知識や史料の集積と関心があって完成したことを知ってほしい」と話している。

ギヤラリートークは9日午後1時30分から。申し込み不要。月曜休館。問い合わせは同館（電話0266・76・2270）へ。